

農 業 技 術 情 報

令和7年9月17日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
J A 幕別町	0155- 54-4118
J A 札内	56-2131
J A 帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町9月15日）（ ）内は平年値

作物名	遅速 日数	生育および作業状況	生育期節
馬鈴しょ	－	収穫始 8/30 (8/25) 収穫期 9/12 (9/7)	
大 豆	早 9	茎長 67. 1 (75. 5) cm 葉数 9. 1 (9. 8) 枚 莢数 680. 9 (643. 3) 個 / m ²	
小 豆	早 8	茎長 76. 4 (65. 4) cm 葉数 14. 3 (11. 9) 枚 莢数 380. 4 (373. 6) 個 / m ²	成熟期 9/7 (9/15)
菜豆（金時）		収穫期 9/16 (9/12)	成熟期 8/28 (9/2)
てんさい（移植）	遅 1	根周 40. 8 (41. 8) cm	
てんさい（直播）	遅 1	根周 32. 5 (32. 7) cm	
牧 草	－	収穫期 8/28 (9/1)	
飼料用とうもろこし	早 8	収穫始 9/10 (9/11)	黄熟期 9/3 (9/11)
ながいも	遅 2	調整長 51. 5 (52. 1) cm いも重 1067. 9 (1089. 4) g いも径 57. 2 (64. 7) mm 乾物率 10. 0 (11. 3) %	

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

畑 作

< 秋まき小麦 >

越冬前の十分な生育量を確保するため、適正な種床の準備、適期は種、適正は種量を心がけましょう。

は種前に額縁明きょや心土破碎など、排水対策を行いましょう。

1 は種（は種時期・は種量）

小麦の‘主茎葉数4～6枚が確保できる時期’で140～255株/m²を基本とし、は種時期の早晚により、は種粒数を増減します（表1）。また、出芽率が低いほ場では、適宜は種量を増量します。

やむをえず遅まきとなった場合も、255粒/m²（下表では10.4kgまたは10.2kg）を上限とします。

表1 地帯別は種時期・は種量の目安

(単位:kg/10a)

観測地点	9/20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10/1	2	3	10/4
明倫	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	5.8	6.3	6.9	7.6	8.4	9.2	10.1	10.4	10.4	10.4
相川	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	6.1	6.7	7.3	8.1	9.0	9.8	10.4	10.4	10.4	10.4
南勢	5.7	5.7	5.7	5.7	6.2	6.8	7.5	8.2	9.1	10.0	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4
糠内	5.7	5.7	6.2	6.7	7.4	8.2	9.0	9.9	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4
駒畠	5.7	5.7	6.2	6.7	7.4	8.1	8.9	9.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4
帯広	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.9	6.5	7.1	7.8	8.8	9.8	10.2
日新	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.9	6.4	7.0	7.8	8.5	9.3	10.2	10.2	10.2	10.2

※斜体は「葉数6葉程度」、太字は「5葉程度」、囲いは「4葉程度」となるは種日を指す

※積算気温に基づくは種時期は各地点 2015～2024 の10カ年平均値に基づいて算出

※千粒重は本年幕別産 36.6g、札内産 35.9g、出芽率90%として計算

2 雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのはこの時期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、は種後出芽前に土壌処理を実施しましょう。

表2 秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	10a当 薬量(ml)	使用 回数
ガレース 乳剤	全面土壌散布 (雑草発生前)	は種後～出芽前	200～250	1回
	土壌兼 雑草茎葉散布	小麦出芽後～出芽揃	150～250	
		麦の1～3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～150	
ガルシア フロアブル	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	150～250	1回
	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～200	
	【大豆間作向け】 雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦4～6葉期(越冬前) スズメノカタビラ4葉期まで	200～250	
ゴーゴーサン 乳剤	全面土壌散布	は種後～小麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期)	300～500	1回
ボクサー	全面土壌散布	は種後～小麦4葉期まで (雑草発生前～発生始期)	400～500	2回
エコパート フロアブル	雑草茎葉散布	秋期:小麦2～6葉期	50～100	2回

3 連作となる場合の注意点

前作の収穫遅れなどやむをえず連作となる場合は、早めの決断、早めのほ場準備、可能な限り適期のは種、を行なうことにより越冬前の生育量を確保することが重要です。

また、前作の麦稈がほ場表面に露出している場合、雪腐病の感染源となるおそれがあります。耕起を行い、麦稈を地中にすき込むよう心がけ、適期に防除を実施し、越冬後は融雪促進に努めましょう。

ただし、条斑病・縞萎縮病など土壌病害が発生しているほ場の連作は避けましょう。

<てんさい>

1 収穫時・堆積時の注意点

(1) 収穫時の注意点

ア. 収穫作業は輸送計画に合わせ、適期に収穫しましょう。

イ. タッピングは切り過ぎないように調整しましょう。

ウ. 根腐症状個体を可能な限り取り除きましょう。

(2) 堆積時の注意点

収穫後は、必ずシートで被覆し、乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

2 次年度用育苗土の準備

病気の恐れのない健全な育苗土を準備し、pH 測定を実施し目標 pH 6.0～6.5 になるよう粉状炭カルにより酸度矯正をしましょう。

<豆 類>

登熟状況と天候を鑑み、適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

1 小豆の収穫

収穫適期の目安は、「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表2 小豆の収穫適期の目安(H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫		熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫	100% (子実水分 16～18%) 完熟期 (熟莢率 100%) から2週間以内	①汎用コンバイン(4条)～熟莢率 90%、 子実水分 25%程度 ②豆用コンバイン(2条)～熟莢率 80%、 子実水分 25%程度

2 大豆の収穫

(1) 汚粒対策

わい化病株や雑草(特に紫色の実をつけるイヌホオズキ)は、事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を進めましょう。

(2) 収穫適期

刈り取り時期および時間帯も汚粒の発生に影響します。刈り取り時期は子実水分が

20%以下(最適は 16%以下)の時とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。朝夕は機体内に塵が付着し汚粒の原因となりやすいので避けましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。特に今年は生育が進んでいるため、適期収穫を心がけましょう。

(3) グリホサート系除草剤の収穫前使用(落葉終期～収穫 14 日前まで)について

収穫前に雑草を枯らし、汚粒防止や機械作業性を向上させる目的で国の登録はありますが、使用時期が狭く農薬が豆に残留しやすいことから、品質低下ならびに農薬の適用外使用となるリスクもあります。

このため、ホクレンでは令和2年産以降、収穫前使用した場合、JA の大豆共計では取り扱わないこととしています。

グリホサート系除草剤の収穫前使用にあたっては、受け入れ業者と確認の上散布の判断をして下さい。

<緑肥のすき込み>

緑肥のすき込みが遅れると、分解が遅れたり次年度以降に雑草化する場合があります。緑肥が結実する前(出穂または開花後7～10日を目安)で温度がある時期(遅くとも10月下旬まで)にすき込みましょう。

特に「ひまわり」は、花蕾に菌核病が発生することがあり、後作に「ばれいしょ」・「豆類」・「野菜類(白菜、キャベツ、レタス等)」を作付する場合は、開花前にすき込んでください。

<「緑肥用えんばくのいもち病」の対策について>

えん麦野生種(サイアー・ヘイオーツ等)が枯れる症状が今年も見られています「緑肥用えんばくのいもち病(セイヨウチャヒキのいもち病)」。

昨年より発生面積および程度は少ない状況ですが、今後も気象条件やほ場条件により病斑の拡大が進む恐れがあります。ほ場を観察し、適期にすき込みましょう。

(基本対策) 発病が確認された段階で深めにすき込む

(空気感染であり、今回発生ほ場の近隣ほ場に影響が及ぶ可能性があり、次年度の発生リスクが考えられるため)

(すき込み時期目安) は種後50～60日

(センチュウ抑制効果を安定的に発揮させるには60日必要※)

※ 無病で健全な生育をした場合。いもち病感染程度によっては効果が劣る。

(注意点)

●病気が進行しないうちにすき込みましょう

●行政による交付金に取り組んでいる方は、すき込み時期(生育期間)に留意してください

野 菜

<ながいも>

近年、ながいもの乾物率が低い傾向にあります。「つる降ろし」や「つる切り」のタイミングが早いと乾物率が低く、収穫時の折れ、皮ムケの原因や食味の低下につながります。茎葉の黄化程度やいもの尻部状態に応じて、つる切り日を判断してください。

1 つる降ろし・つり切り

- ・実施前に試し掘りをし、尻部が丸く硬くなっていることを確認してから行ってください。
- ・「つる降ろし」や「つる切り」は、茎葉が黄変した後に実施してください。黄変前のつる切りは未熟いもの原因になるため注意してください。

年次別乾物率(9/15時点)

平年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
11.3	12.8	8.8	9.0	10.0

※乾物率は、(低)15%未満、(中)15～17%、(高)17%以上とされています。乾物率が低いと貯蔵性、食味の低下に影響します。

日没が早まり視界もすぐに悪くなります

薄暗がりでは機械の周辺で作業する人が見えにくくなります。

クラクションを鳴らし、周囲に合図してからゆっくり発進するようにしましょう。

- ・公道を通行する場合は、早めにライトをつけ、夜光反射板や低速車マークを装着しましょう。
- ・収穫機の調整や詰まりものは、必ずエンジンを止めてから除去しましょう。
- ・靴やステップが泥の付着により滑りやすくなります。機械ステップの昇降時は十分注意しましょう。

※収穫残渣のほ場での焼却は止めて堆肥化に努めましょう